

平成28年度第2回日本一の健康長寿県構想中央西地域推進協議会 概要

- 1 日 時 H29.2.8(水)18:30～19:30
- 2 場 所 高知県中央西福祉保健所 2階 会議室
- 3 出席者 28名(委員16名 事務局12名)

◆委員(敬称略)

○医療・保健関係

- 田村 章 《吾川郡医師会長》
廣瀬 大祐 《高知市医師会土佐市選出理事》
吉川 美穂 《高知県看護協会吾川・佐川支部長》
近岡 浩史 《高知県薬剤師会高吾支部長》

○福祉関係

- 山本 君子 《佐川町社会福祉協議会介護保険事業所長》
町田 好徳 《中央西ブロック民生委員児童委員協議会長》
西森 柳子 《高知県介護支援専門員連絡協議会中央西ブロック世話人》

○行政関係

- 森本 悦郎 《土佐市健康づくり課長》
岡林 輝 《土佐市長寿政策課長》
筒井 誠人 《いの町ほけん福祉課長》
大野 理枝 《仁淀川町保健福祉課長》
岡崎 省治 《佐川町健康福祉課長》
結城 盛男 《越知町保健福祉課長》
松岡 一宏 《日高村健康福祉課長》

○地域組織・団体・住民の代表

- 矢野 定 《佐川町老人クラブ連合会長》
加藤 良子 《中央西地区食生活改善推進協議会会長》

議事等概要

- 1 開 会
- 2 中央西福祉保健所長挨拶
- 3 議 事

(1)報告及び意見交換

事務局が資料により説明

①平成28年度中央西福祉保健所の重点的な取組

- ・生活習慣病予防対策(第3期よさこい健康プラン21)の推進
- ・子どもの健やかな育ちへの取組
- ・地域包括ケアシステムの構築【在宅療養】
- ・中山間対策と連携した地域福祉の推進
- ・南海トラフ地震対策の強化の取組

議事（１）平成28年度中央西福祉保健所の重点的な取り組み

◆生活習慣病予防対策(第3期よさこい健康プラン21)の推進

(F 委員)

ヘルスマイトの事業では、地域で子どもから高齢者まで食を通じた健康づくりや食事活動に取り組んでいます。中央西地域では26年度から「うす味 もち味 ほんとうの味」の普及をとりあげて活動をすすめています。27年度からは事業所訪問での普及活動を行っていますが、事業所には「健康★5★スターで脳卒中を防ごう！」という冊子が配布されていて、それも参考にしながら話をする事ができました。事業所では、やはり若い方が健康づくりに気を配っておられ、私たちの訪問にも面倒がらずに素直に受け入れてくれ、お昼の休憩時間とか、夕方の10分ぐらいを利用して、うす味のみそ汁を試食して頂きました。事業所の若い方は、健康には気にしているけれど時間がないからインスタントものが多かったりして、実行につながっていないことも多いようです。だし汁の取り方など、私たちにもまだまだできることがあると気づきました。学校でも、若いお母さん、お父さんにもお話をする機会を設けています。事業所訪問では、1月末で現在7事業所108名の方に啓発活動しています。

(A 委員)

ここ数年、子どもの予防接種の数がすごく急速に増えていると思いますが、そのことに対するアナウンスとか取り組みはどんな状況でしょうか。資料では、高知県の予防接種の実施はあまり良くないように思いますが。

(事務局)

市町村の母子保健担当の方とか事務の担当の方と一緒に予防接種についての研修会については管内で実施しています。

◆子どもの健やかな育ちへの取り組み

(D 委員)

平成27年度に実施した母子保健に対するニーズ調査で、妊娠中に不安を抱えたまま過ごしたり、忙しいためにきちんと妊婦教室を受けられてない方や産後に育児に不安を持っている方が多いことがわかりました。産後の困りごとが約6割あり、その中には、産後の支援者がいない方が4.6%もありました。妊娠期から不安を抱えたまま育児を頑張っている方も多くいますが、育児への負担も強くなっていることや少子化や中山間地のため近くに子育て仲間が少なく孤立しやすい状況にありました。そのような状況をふまえて、平成28年度に国の妊娠・出産包括支援事業を導入し、産前・産後訪問活動を開始しました。県助産師会と委託契約を結び、助産師が訪問指導を行い、母子を支援していく取り組みをはじめました。具体的な取り組み内容は、母子保健コーディネーターが全妊産婦に関わりを持ち、支援が必要な妊婦に対して支援プランを作成し、関係機関との連携を図りました。地区担当保健師と協議し、台帳や記録様式等を統一しました。子育て支援センターや教育委員会とも協働して、事業を実施しています。仁淀川町の年間出生者数は、平成17年の合併後、もっとも多い年は34人いましたが、ここ数年は20人に満たない状況であり、平成28年度は現在まで9人と極めて少ない状況になっております。この9名の方への産前訪問を行い、また現在妊娠届が出ている7名の妊婦さんについて今後訪問の予定をしております。産後訪問は出生者9人に対して訪問を行っております。対象となるお子さんや母親の数が少ないため、町として深い関わりをもつこともできていますが、少ない中でもリスクのあるケースもあり、助産師による

訪問は非常に重要で、妊娠中及び産後早期に専門家による相談支援体制をしていることは育児や養育に関する不安の解消がはかられていると感じています。

◆地域包括ケアシステム構築【在宅療養】 ◆中山間対策と連携した取組み
(E 委員)

1つは、在宅医療と介護の連携についてです。佐川町、越知町、仁淀川町の仁淀川上流で、今年度から行政を主体にして医療・介護の連携を進めております。3町での連絡会を各町の地域包括支援センターの職員が集まり、7月から毎月1回のペースで6回開催し、来週、2月16日に、佐川町で3町合同の研修会をすることになりました。この研修会は、行政職員だけでなく、医療関係も含めて多職種の70名ぐらいが参加の予定です。去年度まで高北病院を中心にやっていた退院支援のシステムを、今後どういう風に地域の中で活用していくかを検討することとしています。

中山間対策と連携した取組みについては、佐川町では平成の合併はしていませんが、昭和の合併の時の、小学校地区単位が5つあり、町部の佐川地区以外の所の4地区では、来年度中に、集落活動センターを設置する予定になっています。あつたかふれあいセンターは、現在2地区に設置していますが、平成30年度までには町部を除いた2地区に新たに設置する予定で、それらの地区では、あつたかふれあいセンターと集落活動センターの両方ができることとなります。これは行政主体ということではなく、地域の方々に主体となって作っています地域福祉活動計画の中で、地域の拠点を作っていこうという流れの中で両センターを設置する計画となっています。この間、県の計画推進課の方にも来ていただいて地域づくりの観点、拠点作りの情報共有や協議をし、町としてもあつたかふれあいセンター、集落活動センターの情報連携を進めています。具体的な問題となるのは、あつたかふれあいセンターにはコーディネーター、集落活動センターには集落支援員、介護保険関係には生活支援コーディネーターがあり、それぞれ町行政の所管課が異なるので、地域で活動するそれぞれのコーディネーターの役割分担をしながらやっていくことが課題となります。今後、これらのコーディネーターの連携がうまくいくような仕組み作りが必要であると考えていますが、県内でも集落活動センターとあつたかふれあいセンターが連携した拠点づくりの前例はないということでしたので、県のご指導も仰ぎながら今後進めていきたいと考えております。

(B 委員)

ケアマネージャーとしては、佐川町のあつたかふれあいセンターがインフォーマルな活動をしてきているので、見守りなどで連携をとっています。すごく良い取り組みだと思いますので、他の市町村にも広がっていけば良いなと思っています。佐川町に来て2年になりますが、困ったときにすぐに動いてくれ大変助かっています。

◆南海地震対策の強化の取組み
(C 委員)

いの町は、今年度、医療救護の行動計画を、中央西福祉保健所のご支援をいただき策定しました。既存の防災計画はありますが、仁淀病院は、町の災害対策本部の中に入っていませんでした。医療救護では、災害時の拠点病院であります仁淀病院の役割が非常に大きいので、県の災害医療コーディネーター、町の災害医療アドバイザーである仁淀病院の院長さんのコーディネートが必要ということで、災害対策本部の中に病院部を設置し、仁淀病院に入ってもらうこととしまして、今年度末開催予定のいの町防災会議に諮り、防災計画に盛り込むこととしています。それから、災害時のDMATの受入も拠点病院の役割が大きいこ

とや、中山間地の災害時の医療救護の在り方も検討する必要がある、行動計画の中の交通網、道路の再開できるまでの啓開計画では、本川地区では高知の中心部方面だけでなく愛媛県の西条方面への経路についても盛り込んでいます。課題として、医療スタッフの移動手段などがあり、今後、吾北地区に診療所をもっております医療法人の協力について検討していきたいと考えています。タイムラインに沿った計画ができていますが、詳細につきましては今後、町でマニュアルの策定を検討したいと考えております。